十勝・釧根・北網

ニュースのお知らせは

最寄りの支社局

帯広支社 ☎0155(22)0401 FAX(28)2519

釧路支社 ☎0154(41)3832 FAX(44)2065

北見支社 ☎0157(23)4666 FAX(66)2175

網走支局 ☎0152(44)2675 FAX(61)2175

士幌町

被害額3―5億円試算

台風で一部崩落の西上橋

【帯広】台風10号による音更川の増水で一部が崩落した士幌町道の西上橋について、町は被害額を3億―5億円と試算している。12月に国の災害査定を受ける。公共土木施設の災害復旧が認められても渇水期の工事となるため、着工は早くても2017年秋になる見通しだ。

西上橋は士幌町士幌西2線にあり、町道士幌上音更線で西上地区と市街地を結ぶ。1982年に完成し、橋長は196㍍、幅員は8・7㍍。上部構造は5径間のポストテンション方式PC単純T桁。直接基礎の逆T式橋台と小判型壁式橋脚4基で構成する。直近では09年6月に遠望目視で点検している。

台風10号の襲来では、音更川の護岸が破損し、高水敷まで水位が上昇。西上地区側のP4橋脚が斜めに沈下し、上部が崩壊した。P3橋脚にも1㌢程度のクラックが入り、A2橋台とP2橋脚にもそれに伴う傷みが生じている。河川の流量が増えたことや、増水でP4橋脚周辺に流木が巻き付いたことなどが沈下の原因とみられる。

復旧工事ではP3、P4橋脚と第4、第5径間を造り直すことがメインとなる。そのためには第3径間をつり上げ、損傷した橋脚を解体し、新しい橋脚を施工しなければならない。

現橋は直接基礎だが、火山灰質の砂が深くまで達している。同様の豪雨があった場合、再び洗掘される可能性もあるため、杭工事が必要と判断されれば工事費は膨らむ。帯広建管が管理する音更川も護岸復旧が必要なため、町では具体的な復旧方針は災害査定後に詰めていく考えだ。

豊頃町

残事業費は3.9億円

下水道施設機械・電気更新

【帯広】豊頃町が2015年度から5年間で進めている町内の下水道施設の機械・電気設備更新について、17―19年度の残事業費は3億8570万円に上る見通しだ。茂岩下水浄化センターは、18年度に反応タンクのばっ気装置、19年度にCRT監視装置やミニグラフィック操作卓などを更新する。大津下水浄化センターは17年度の沈砂池自動除じん機などを予定する。

町内には、茂岩下水浄化センター（1996年建築）、大津下水浄化センター（95年）、茂岩汚水中継ポンプ場（96年）、中央マンホールポンプ所（98年）、豊頃地区マンホールポンプ所（2000年）、大津中継マンホールポンプ所（98年）の6施設がある。

これら機械や電気などの設備は、老朽化が著しく、今後の維持管理費増大が予想されることから、長寿命化計画を基本に費用の平準化に配慮しながら更新を進めている。総事業費は約4億9800万円を見込む。

17年度以降の主な設備更新箇所は次の通り。

◆機械

◇17年度▽大津下水浄化センター＝沈砂池自動除じん機、最終沈殿池返送汚泥ポンプ1号、最終沈殿池返送汚泥ポンプ2号▽中央マンホールポンプ所＝No.1汚水ポンプ、No.2汚水ポンプ

◇18年度▽茂岩下水浄化センター＝反応タンクばっ気装置、用水設備給水装置▽大津下水浄化センター＝汚水ポンプ1号、汚水ポンプ2号、汚水ポンプ3号▽茂岩汚水中継ポンプ場＝汚水ポンプ3号▽豊頃地区マンホールポンプ所＝No.1汚水ポンプ、No.2汚水ポンプ

◆電気

◇17年度▽茂岩下水浄化センター＝汚水流量計、濃縮汚泥流量計、余剰汚泥流量計、汚泥貯留槽液位計、1系ディッチ溶存酸素濃度計、処理水流量計、1系返送汚泥流量計、汚泥流量計、薬品流量計

▽大津下水浄化センター＝ポンプ井水位計、流入汚水流量計、溶存酸素濃度計、返送汚泥流量計、余剰汚泥流量計、濃縮汚泥流量計、汚泥貯留槽液位計▽中央マンホールポンプ所＝汚水ポンプ制御盤、引込開閉器盤、非常通報装置、水位計

◇18年度▽茂岩下水浄化センター＝1系ディッチ現場盤▽大津下水浄化センター＝引込開閉器箱、ポンプ室現場盤▽豊頃地区マンホールポンプ所＝汚水ポンプ制御盤、引込開閉器盤、非常通報装置、水位計▽大津中継マンホールポンプ所＝非常通報装置、水位計

◇19年度▽茂岩下水浄化センター＝柱上気中開閉器、入出力中継盤、CRT監視装置、プリンター、ミニグラフィック操作卓、マンホールポンプ所テレメーター盤、非常通報装置▽大津下水浄化センター＝CRT装置、プリンター

◆建築

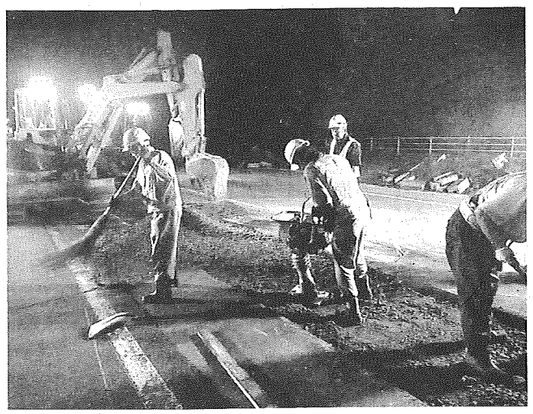
◇17年度▽茂岩下水浄化センター管理棟＝複層塗材仕上げ、フッ素樹脂塗装鋼板▽茂岩下水浄化センター最終沈殿池棟＝コンクリートブロック化粧積の上複層塗材仕上げ、両開きフラッシュドア、片開きフラッシュドア▽茂岩下水浄化センター＝コンクリートブロック化粧積の上複層塗材仕上げ、片開きフラッシュドア

舗装5社が尽力

十勝管内

台風10号被害の復旧

落橋や陥没、路面崩壊



【帯広】台風10号の襲来で交通網が断絶した十勝管内では、生活道路などがいち早く通行できるように帯広市内の舗装会社が災害復旧に力を尽くしている。落橋や陥没、路面崩壊といった甚大な被害が広範囲にわたる中、安全で安心な生活環境を取り戻そうと地道な作業が続く。

東光舗道（本社・帯広、河西智子社長）は、清水町内で落橋した国道38号の小林橋と清見橋の復旧に伴う、迂回路の舗装復旧を手掛けた。10月4日から連日深夜に及ぶ作業の中、7日に終えた。台風10号の大雨に見舞われた際は、帯広市内の簡水箇所での排水作業を夜通し行うなど、パトロールを行い道路損壊箇所の復旧作業にも対応した。

十勝道路（本社・帯広、山口富仁社長）は、冠水箇所でポンプアップや道路パトロール、危険箇所の通行止めに走り回った。河川の氾濫で道路の砂利が流れ出したり、舗装がめくれ上がった箇所が多発したため、早期復旧を目指して連続作業を大樹線の芽室町中美生地区で対応。美生川の越水で道路が冠水し、路肩の法面が流出した箇所で、9月11日と15日に舗装復旧した。国道38号の芽室町芽室坂にある芽室橋は、橋台が洗掘され通行止めに。9月2日から3日にかけての夜間、被災箇所を通行できるように、中央分離帯を撤去して4車線を2車線の対面交通に切り替えるための舗装作業に取り組んだ。

冨士新舗道（本社・帯広、新妻寛社長）は、9月1日に路肩が流出した国道236号広尾町下トヨイ2線に駆け付け、延長11㍍、幅0・5㍍を厚さ3㌢で舗装復旧した。翌2日には同じ国道の上トヨイ基線にある熊の沢橋のたもとで、流出した延長11㍍、幅2・5㍍の片側1車線を、厚さ15㌢で応急復旧。天馬街道の交通止めを解消するため、開放時間に合わせて突貫作業で励んだ。通行止め解除の知らせを待ち望んでいた一般ドライバーがゲート前で見守る中での作業だった。

東日本道路（本社・帯広、萩原久司社長）は、国道38号芽室町芽室坂で舗装復旧に励む東光舗道を進めている。管内主要道路の復旧に向けては、緊急要請にも対応。野川和彦工事グループ長によると、作業時間が長く、体力的にも厳しいが「必ず復旧させる」という強い気持ちで取り組んでいるという。

北洋道路（本社・帯広、田村公裕社長）は、西十勝地区で唯一のアスファルトプラントを清水町に持っている関係から地元とのつながりが強く早い復興を願い9月15日に清水町に災害義援金として200万円、翌16日には新得町に100万円を送った。また、清水町建設業協会からの要請で、9月3、4日の2日間、市街地に流出したペケレベツ川の汚泥処理に延べ9人と4トンダンプを送り出した。

十勝総合局

受注額1.7倍、69億円

農業の上半期工事実績

【帯広】十勝総合局産業振興部が発注した農業農村整備工事の2016年度上半期（4―9月）業者別受注実績が、本紙集計によりまとまった。受注総額は68億5570万円で、前年度同期の約1・7倍となった。第1四半期から首位は変わらず、西江建設が10位から2位に上昇した。

開札結果を税抜きで集計。共同体は構成比率に応じて配分した。管内業者67者と管外の道内業者18者の全85者が計134件を受注。前年度同期比で23者、50件増えた。

地域別の受注額を見ると、管内業者は1・7倍増の62億1160万円、管外の道内業者は1・5倍の6億4410万円で、前年度同期に1件の受注があった道外業者の受注はなかった。

シェアは、管内業者が90・6%で2・3㌽増加した一方、管外の道内業者が9・4%で1・1㌽減少した。

2位の西江建設は畑地帯育成大正南地区1工区（1億629万円）を受注した。第1四半期12位のアスワンは畑地帯育成芽室西地区61工区（6072万円）を受注し7位に入った。上位10社以外では河井ローダー建設が畑地帯育成川西中央外1地区11工区（1億1640万円）を獲得し、36位から12位へと急上昇した。

十勝総合局農業農村整備2016年度上半期業者別工事受注実績・上位10者

（金額・単位千円）

	業者名	所在地	件数	金額
1	村上土建開発工業	音更	4	290,777
2	西江建設	帯広	3	282,320
3	桐谷建設工業	帯広	4	269,034
4	イチエイ山田建設	帯広	3	261,261
5	道東建設工業	足寄	3	241,068
6	斉藤井出建設	足寄	2	232,644
7	アスワン	幕別	3	228,190
8	徳井建設工業	帯広	3	222,408
9	藤原工業	幕別	2	210,941
10	ドゥテック	音更	3	208,038

釧路総合局

104件に2.2億円内示

地域づくり総合交付金

【釧路】釧路総合局は、地域づくり総合交付金の2016年度採択で104件に2億1770万円を内示した。市町村やNPO法人、市民団体などが地域課題の解決や活性化を目的とする取り組みを支援する。

採択事業の件数と内示額の内訳は、一般、水産、農業のハード事業が17件で1億3550万円、市町村ソフト事業が12件で1580万円、団体ソフト事業が34件で2870万円、地域産業基盤（小規模土地改良、小規模林道）事業が13件で2163万2000円、エゾシカ緊急対策事業が8件で579万円、福祉振興・介護保険基盤整備事業が20件で1027万8000円。

年度内完了事業が対象で、ハード事業は多くが着手済み。交付率は2分の1以内で、水産関連のハード事業は全て市町村から漁協などへの間接補助となっている。

主な採択事業は次の通り。

◇一般ハード▽博物館常設展示更新①釧路市②640万円▽宮園公園野球場改修①厚岸町②1710万円▽避難施設発電機整備①標茶町②430万円▽弟子屈町公園コミュニティ増進①弟子屈町②500万円▽消防庁舎建設①釧路北部消防事務組合②1070万円

◇水産ハード▽加工高度施設①釧路市②1100万円▽しいもふ化場機能強化促進①釧路市②400万円▽新基幹業務システム構築①厚岸町②2950万円▽市場衛生

道水産林務部 森林活用

資源循環利用

【帯広】道水産林務部は11日、十勝合同庁舎で北海道森林づくり基本計画と道有林基本計画の見直しに向けた意見交換会を開いた。管内の市町村担当者や森林関係団体ら64人が参加。森林資源の循環利用や森林づくりのさらなる推進を議論した。

森林づくり基本計画は、地域の森林資源の循環活用の構築を目指して今後10年間で取り組む施策を定めている。道有林

開
函
（2016年度
業務期間
期・四半
規模・金
工事・
【函館
◆一般
◇舗装
館市赤川
装③第3④
委託・
【本部
◆指名
◇測量
館市陣川
3カ月②
道277号
量業務①
委託・
【本部
◆指名
◇地質
岸壁改良
②陸上ボ
一リング
水調査③
岸壁新設
月②海上
置試験、
釧
（2016年
期間②概
半期④格
金額単位
工事・
【本部
◆一般
◇舗装
改良①3
舗装794
千万未満
委託・
【弟子
◆標準
◇土木
8
札幌
①こども
台照明
計
参北電
設備研
ンサル
②西仁保健
レベー
設計
参協栄
忠設備